

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1890~1951年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

ぶつりがくしゃ
物理学者



ゆかりのある場所:

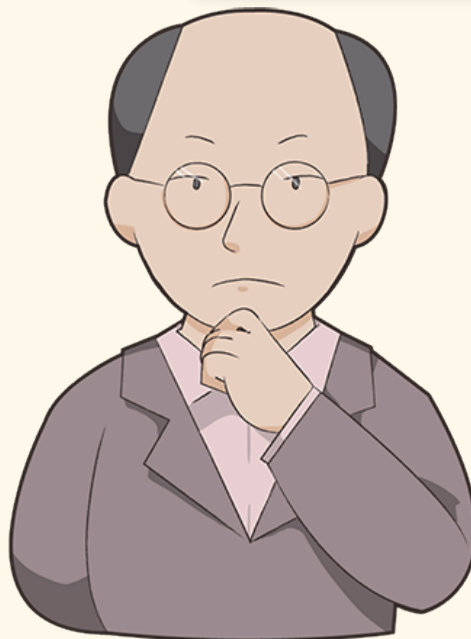
- にしなよしおはかせせい
・仁科芳雄博士生家
- にしなかいかんがくくしんこうにしなさいんだん
・仁科会館(科学振興仁科財団)
- さとしやうちやうれきしきんそくしりやうかん
・里庄町歴史民俗資料館



にしな よしお
仁科 芳雄

新高 早倉 矢井 浅
見 梁 社 島 敷 掛 原 口
市 市 市 町 市 市 市

里庄町
笠岡市



にしなよしお めいじ ねん いま さとしやうちやうはまなか にしなありまさ よんなん う
仁科芳雄は、明治23(1890)年、今の里庄町浜中で仁科在正の四男として生まれました。
とうきやうていこくだいがくてんきこうがく まな いちばん せいせき そつぎやう てんのう ぎんどうけい
東京帝国大学で電気工学を学び、一番の成績で卒業したため、天皇から銀時計をいただき、
ご りかがくけんきゅうじや ぶつりがく けんきゅう はし
その後、理化学研究所で物理学の研究を始めました。

ねん ねん りやうがく
1921年から1928年までヨーロッパへ留学しました。デンマーク・コペンハーゲン
だいがく はかせ りやうしぶつりがく けんきゅう げんだい せんてんもんがく つか
大学のボーア博士のもとで量子物理学を研究し、現代でもX線天文学などで使われる「クラ
にしな こうしき かんせい きこくご りかがくけんきゅうじや あたら ぶつりがく ちやうしんてきがく
イン・仁科の公式」を完成させました。帰国後は、理化学研究所の新しい物理学の中心的学
しゃ にしなけんきゅうしつ しょう じゅしょう ゆかわひでき ともながしんいちろう
者として仁科研究室をつくり、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹、朝永振一郎などのおおくの
けんきゅうしゃそだ
研究者を育てました。

しょうわ ねん にほん さいしよ せかい だい ぼんめ じんこうてき ほう
昭和12(1937)年、日本で最初(世界で第2番目)のサイクロトロン(人工的に放
しゃせん そうち けんせつ げんしかく そりやうしけんきゅう きそ きす ほうしゃせい
射線をつくる装置)を建設して、原子核・素粒子研究の基礎を築いたばかりでなく、放射性
どういげんそ いがく せいぶつがく はばひろ ぶんや おうよう
同位元素(ラジオアイソトープ)を医学や生物学など幅広い分野へ応用するため、まわりの
ひと すす けんきゅう しどう
人よりも進んだ研究を指導しました。

だいにじせきたいせん しょうわ ねんひろしま しんがたばくだん ちやくご ちやう
第二次世界大戦となり、昭和20(1945)年広島に新型爆弾がおとされると直後に調
さ げんしぼくだん だんてい げんいん けんこう がい
査して、原子爆弾と断定しましたがそれが原因となり健康を害しました。

にしなよしお にほん げんしぶつりがく ちち よ にほん げんだいぶつりがく はってん こうけん
仁科芳雄は「日本の原子物理学の父」と呼ばれ、日本の現代物理学の発展におおきく貢献
かれ ことば かんきやう ひと つく ひと かんきやう つく にしなはかせ けんきゅうじんせい こ
しました。彼の言葉「環境は人を創り 人は環境を創る」には仁科博士の研究人生が込めら
れています。